

人が替われば商店街も変わる！次世代につなぐバトン

(魚の棚東商店街、魚の棚西商店街)

訪問日：平成 28 年 2 月 18 日

担当 AD: 藤井 玉夫

明石の顔「魚の棚（うおんたな）」



兵庫県の南部に位置する明石市は瀬戸内海の明石海峡に面しており、淡路島と本州をつなぐ明石大橋を望むことができます。海岸部には明石港があり、瀬戸内海でも有数の好漁場として明石市名物のたこや鯛が獲れ、海苔の養殖も盛んな海の幸に恵まれた地域です。明石大橋が完成するまでは、港はフェリー乗り場として淡路島と本州をつなぐ玄関口でもありました。また明石市には日本の標準時間

となる子午線（東経 135 度）が通り、「時のまち」としても知られています。

明石の中心地にある「魚の棚商店街」は、400 年ほど前から鮮魚を扱う商売が始まっていた地域です。現在も商店街にはその日明石港に水揚げされた魚や加工食品が並び、地元では「うおんたな」と呼ばれ、明石の顔として親しまれています。

魚の棚商店街は、魚の棚東と魚の棚西の 2 つの商店街組合から形成されます。昔はよりたくさんの商店街組合が混在する通りでしたが、徐々に統合し現在の東西 2 つの商店街組合となりました。

2 つの商店街と 2 人のリーダー

魚の棚では、1 年を通して様々なイベントが行われます。商店街が主体で行うものもあれば、商店街を含むまち全体で行うこともあります。商店街が行うものは、半夏生と七夕にあわせた「夜市」や「歳末大売出し」など、地元のお客さんに商店街に来てもらい、楽しんでもらうための催しを行います。まち全体をあげて行うものには、「明石まちなかバル」や時のお祭りである「時のウィーク」などが



あります。

東西2つの商店街にはそれぞれに役員がいて、会計なども分かれています。基本的には一つの「魚の棚」としてイベントなど協力して行います。東の商店街を安原宏樹理事長、西の商店街を瀧野幹也理事長が引っ張ります。この東西商店街は、今は肩を並べ協力していますが、数年前までそれぞれに問題をかかえ、足並みを揃える事ができずにいました。

東では長年対外的な繋がりを持たず、旧態依然とした組合運営や古い考え方が蔓延し、また西では組合員の賦課金滞納などが積み重なり財政難となり、施設整備やイベント費用の工面にも一苦労でした。明石大橋開通による観光客向けの店舗への転換増加や、それによる地元客の魚の棚離れなどで商店街の活気が停滞していましたが、東西それぞれの問題もあり、両商店街の仲がぎくしゃくして共同での活動もできませんでした。

しかしある時、東では安原氏が商店街の状況に危機感を持ち、当時の役員陣とかけあい商店街役員を若手のメンバーに一新。自身は30歳の若さで理事長に就任し、新しい仕組みをつくり、組合を変えました。安原理事長はこのことを「若手によるクーデター」と言い、「知識やアイデアで先輩役員に認めてもらい、商店街のバトンを手に入れた」と話します。組織が若返ったことで、今ではメンバーで情報をすべて共有し、風通しの良い組織運営ができています。また、その当時に渡り合った先輩方とも良い関係を築いています。一方西でも、40代前半で理事長となった瀧野理事長の穏やかなリーダーシップのもと、組合のチームワークを発揮して賦課金の回収を行い、徐々に商店街の財政難を解消。今では安定した組合運営ができています。

それぞれの状況が落ち着き財政のバランスも取れてきたことで、東西商店街は連携できるようになりました。月に1度合同で役員会を開き、魚の棚全体の運営について話し合っています。また、両理事長は、魚の棚全体のことについて相談することはもちろん、それぞれに困り事がある時には協力するなど、お互いに助け合うことで魚の棚全体の雰囲気も良くなり、さらに魚の棚を盛り上げる機運につながっています。

地元のお客さんと将来の魚の棚のために



魚の棚には観光客も多く訪れますが、地元のお客さんに喜んでもらうことこそを第一に考えています。イベントを企画するだけでなく、施設を整備したりそのために新会社を立ち上げたりと様々な事に挑戦しています。また、商店街アーケードの改修をきっかけに、店舗のリニューアルや時代のニーズを取り込んだ商売替えなども行われました。これにより、

商店街が見た目にも楽しく、飲食店の増加により地元のお客さんのみならず、観光客の「まちぶら」にも対応する商店街へと変化をしていったのです。

地元の人にとって、いつも楽しい場所にすることで魚の棚がにぎわい、自分たちの子供達のような後の世代も「自分たちの商店街は楽しい」と愛着を持ってほしいと考えています。それが魚の棚がずっと続いていくために大事なことでと考えています。

このように、魚の棚は商店街の将来を見据え、柔軟に動いています。それは理事長をはじめ、商店街の中心メンバーが若い人になったことによります。魚の棚のように、停滞していた商店街の再生のためには、30代や40代といった若い人が理事長となり、同世代を巻き込み、時に先人の助けを借りながら組織を作っていく必要があります。

商店街データ

商店街名：魚の棚東商店街振興組合

魚の棚西商店街振興組合

所在地：兵庫県明石市本町 1-1-16（魚の棚事務所）

担当者：魚の棚東商店街振興組合 理事長 安原 宏樹

魚の棚西商店街振興組合 理事長 龍野 幹也

連絡先：078-911-9666（魚の棚事務所）